

# 地域史とは異なる奈良県の空襲被害が一目瞭然 学校史や市町村史を調査し奈良県戦跡デジタルマップを作成 7/2(土)近鉄奈良駅周辺フィールドワーク時から公開

帝塚山大学(学長:蓮花一己 所在地:奈良市帝塚山7-1-1)法学部法学科の末吉洋文教授(専門:国際法、平和学)とゼミ生が、奈良県の戦争被害を可視化することを目的に、空襲被害や戦跡、戦争関連のエピソード、場所やモノなど、学校史や市町村史、体験記から拾い上げた記録をGoogle mapに反映し「戦跡デジタルマップ」を作成しました。7月2日(土)に実施の「帝塚山大学生ガイドによる戦跡フィールドワーク」に合わせてマップを一般公開します。



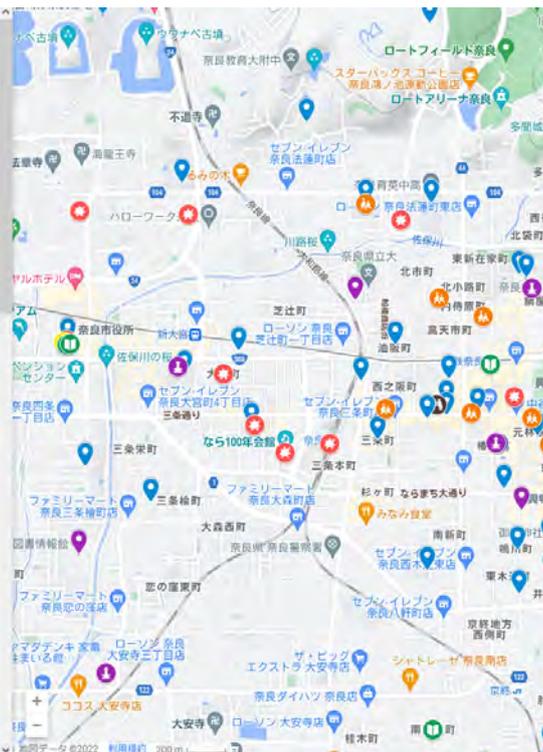
← 東大寺 (仏像疎開)

名前 東大寺 (仏像疎開)

説明 戦争遺跡フィールドワーク (ゼミ生説明文) 20210619 帝塚山大学法学部国際法・平和学ゼミ ⑤ 仏像疎開 (山谷)

「仏像疎開」とは、1940年代の太平洋戦争の空襲・戦災などから逃れるために、仏像などを安全な寺に疎開したことをいいます。奈良の仏像が、空襲に備えて戦争疎開をするのは、太平洋戦争最末期のことであり、空襲・戦災が逼迫のギリギリのタイミングで行われたとされています。1944年3月に東大寺本坊の調査済みの国宝物件を興福寺に搬入、同日に興福寺の国宝66点と共に、国宝収蔵庫に指定された興福寺に搬出された。これが、奈良での国庫疎開、仏像疎開の最初である。本格的な仏像疎開は、奈良市中が空襲に遭うようになった1945年6月以降になるが、終戦まで、移動が可能な仏像は、安全な場所へ疎開移送されていくことになる。仏像疎開が遅れた理由は、仏像は信仰の対象であるからであり、お寺での礼拝の対象としてあることに意味があるものであり、お寺にとってみれば考えられることではなかった。仏像疎開は、単なる美術品や文化財を疎開させるのではなく、全く意味の違うものだったからであると考えられる。

また、奈良を代表する写真家・故入江泰吉(いりえたいきち)氏は、1945年3月14日夜の大阪上空襲で自宅が全焼。文庫の本方だけをもって奈良の生家(せいけ)へ引き揚げる。東大寺西門跡近くに下宿する。1945年11月17日に、東大寺法華堂(三門堂)の四天王像が疎開先の山越のさる山寺から因入たちに盗られて戻るのを目撃、アメリカ



デジタルマップ作成の過程で、今回の調査数字と奈良県の空襲被害数で引用されることが多い地域史『奈良県の百年』での数字は件数が異なることがわかりました。『奈良県の百年』では、空襲が15件、死者は32名であったのに対し、今回の調査では日時不明のものを含めて、空襲は少なくとも91件(90か所)、死者は40名に上りました。(2022/6/24時点)

(ただし、空襲を空から行われた攻撃と定義し、死者や明確な被害が確認されていない攻撃も数に含めている。また、同じ地区に別の日に行われた空襲は、それぞれを1件としてカウントしている。)

- 末吉洋文教授とゼミ生が学校史や市町村史、体験記などをもとに「戦跡デジタルマップ」を作成。7/2(土)のフィールドワーク時から公開。(https://sueyoshi0.wixsite.com/tzk-peacestudies)
- 調査から、地域史「奈良県の百年」に記載される空襲被害に比べて、はるかに多い数の空襲があったことがわかった。
- 「戦跡デジタルマップ」作成の目的は、奈良県の戦争被害(空襲など)の可視化。教育現場で平和学習の教材として活用してもらうことを視野に入れている。

貴社メディアにおかれましても、ぜひ趣旨をお汲み取りいただき、取材ならびに報道のご協力をよろしくお願い申し上げます。

取材および  
内容に関する  
お問い合わせ

帝塚山大学 入試広報課 〒631-8501 奈良市帝塚山7-1-1  
Tel:0742-48-9149 E-mail:koho@jimuz.tezukayama-u.ac.jp(担当:鈴木)

報道関係各位

2022年7月1日

【本件の背景】

**正確な数字がわからない第二次世界大戦の空襲被害**

空襲被害の全国調査は、復員省第二次調査(1946年)、経済安定本部による「太平洋戦争による我国の被害総合報告書」(1949年)、全国戦災都市連盟が空爆死没者慰霊等に記した死者数(1956年)などが知られ、近年では、朝日新聞による調査(1991年)、東京新聞による調査(1994年)も行われています。奈良県での空襲被害及び死者数は、地域史である『奈良県の百年』や東京新聞による調査の数字を参照することが通例です。しかしながら、**いずれの調査も数字が異なり、どれが正確であるかは現在もよくわかっていません。**



探究型の平和学習を実施(2021年11月)

今回の調査結果から、戦争による被害がさほどではなかったと思われる**奈良県でも、少なくともは数**  
**の空襲を受けていた**ことが明らかになりました。末吉教授とゼミ生は、**平和学習教材として活用してもらう**  
**ことを目的に**、この調査結果をGoogle mapに反映。**奈良県だけでなく、戦争激戦地だった東京都、大阪府、広**  
**島県、長崎県、沖縄県などの情報も加え、デジタルマップとして公開します。**

**7/2(土)に戦跡フィールドワーク、7/9(土)にマップ利用のワークショップ**

【帝塚山大学生ガイドによる戦跡フィールドワーク】

日時:7月2日(土) 近鉄奈良駅東口に10:00集合、12:30解散予定  
興福寺(集合場所、軍事教練の写真)⇒入江泰吉旧居(戦時中のプロパガンダ紙の写真を撮影、前を通過)⇒森奈良漬店(戦時下の食や産業について)⇒奈良ホテル(防空壕、銅鑼)⇒ホテル尾花 会議室(戦時下の娯楽、奈良からも見えた大阪大空襲)

**★ホテル尾花の先代社長の中野重宏氏(94歳)が尾花座の歴史から見た戦時下の娯楽や終戦前後の厳しい時代についてお話くださいます。**

⇒ROKKAN ROOM(防空壕、※行ける人だけ参加)



奈良公園で戦跡について高校生に説明する学生(2021年6月)

【高校生とのディスカッションワーク】

日時:7月9日(土)(10:30~12:00) 実施場所:帝塚山大学 東生駒キャンパス 図書館内シーキューブ

**戦跡デジタルマップを使用しつつ、フィールドワークのまとめを発表**

<参加予定者> 帝塚山大学法学部国際法・平和学ゼミ(教員1名+学生)、奈良県立国際高等学校(教員+生徒)

※7月2日(土)実施のフィールドワーク、7月9日(土)実施の高校生とのディスカッションワークの写真については、ご提供可能です。ご入用の場合はご連絡ください。

取材および  
内容に関する  
お問い合わせ

帝塚山大学 入試広報課 〒631-8501 奈良市帝塚山7-1-1  
Tel:0742-48-9149 E-mail:koho@jimmu.tezukayama-u.ac.jp(担当:鈴木)